

番号	53	名称	錦橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	大手町一丁目～神田錦町三丁目（日本橋川）
設計者		竣工	大正 15 年（1926）



歴史・文化的特徴

震災復興橋梁として大正 15 年に初めて架けられた。近隣の町名を橋名としている。

意匠・構造の特徴

中央に一連のアーチ、左右に対称に半連アーチを持つ個性的な構造のコンクリート橋である。

シンプルだが重厚感ある親柱、石造風の高欄、橋灯などに表現派風の意匠を見て取る事ができる。

周辺景観との関係

親柱や高欄が目に入る。周辺は高架が交錯し眺望はあまり良くない。橋上には小さなバルコニーがある。橋からは古い護岸を見ることができる。

橋詰には小さな植栽帯が備えられている。

周辺道路等から橋の印象的な全景を見ることができるが、首都高速道路の高架が交錯しており、圧迫感のある景観となっている。水面からは印象的なアーチをきれいに見ることができるが、高架やガス専用橋が視界を遮っている。